

事業名	肉用牛改良推進事業費		
細事業名	高品質和牛倍増プラン推進事業費	財務コード	058303
担当部課室	農政 部 畜産 課 生産振興	担当 (内線)	5261

調書番号	87
------	----

I 事業の概要

実施期間	始期 H11 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(直営、委託)		
目的	だれ(何)を対象に 肉用牛(和牛)を飼養する農家等	その対象をどのような状態にして 県内繁殖雌牛の能力を把握することにより、計画的に優良牛を導入できる。	結果、何に結びつけるのか 県内肥育素牛の生産拡大 肉用牛農家の経営安定
	内容 集団改良体制による県内黒毛和種の産肉能力の効率的改良を図り、繁殖経営の安定化と優良肥育素牛の県内確保拡大を推進する。 ○高品質和牛倍増プラン推進協議会の開催(年1回) ○県内出荷肥育牛のデータ収集(委託先:山梨県家畜改良協会) ○繁殖農家巡回指導 ○和牛入門セミナー参加		

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
活動指標	出荷牛データ収集数	目標	273	273	273	273	273	273
		実績(見込)	273	273	273	273	273	273
		達成率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		達成区分	b	b	b	b	b	b
成果指標	甲州牛生産頭数	目標	450	450	450	450	450	450
		実績(見込)	383	417	384	380	374	388
		達成率	85.1	92.7	85.3	84.4	83.1	86.2
		達成区分	b	b	b	b	b	b
決算(予算) 単位:千円		1,221	1,069	1,018	939	938	977	920

III 事業の評価(平成29年度の業績評価)

活動指標	b	評価	例年、県内繁殖雌牛の育種価算出に必要なデータ集積が予定通りなされている。 ※育種価:親から子に伝えられる遺伝的能力の度合いを数値で示したものの。
成果指標	b		得られた育種価をもとに農家指導を実施することで効率的な肉用牛の改良増殖が行われている。これにより、(株)食肉流通センターへ出荷された肉用牛の成績も安定しており、意図した成果をほぼ上げている。

・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。
 ・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

IV 見直しの必要性(平成31年度に向けた改善等の考え方)

判断	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い	<input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる	<input type="checkbox"/> 必要性が低い	
	説明	<input checked="" type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input type="checkbox"/> その他 ()		
説明	世界貿易情勢による牛肉価格等、肉牛経営へ影響が懸念される中、育種価を活用した生産子牛の高品質化は県産ブランドである甲州牛の生産振興に必要不可欠である。			
有効性(成果向上)	判断	<input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能	<input checked="" type="checkbox"/> 成果向上が可能	<input type="checkbox"/> 成果向上はあまり望めない
説明	育種価を活用した改良の推進により、甲州牛出荷頭数のうち県内産肥育素牛の占める割合は年々増加しており、今後も成果向上は期待できる。			
判断	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある	<input type="checkbox"/> 見直す余地がない	
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input type="checkbox"/> その他 ()		
その他	説明			
見直しの必要性	有	出荷牛のデータ収集・解析等は予定どおり実施されており、成果向上に向け今後も同等の活動を行う予定であるが、協議会の開催規模について見直す余地がある。		

V 見直しの方向(平成31年度当初予算等での対応状況)

実施方法等の変更	説明	会議の参集範囲を整理し、事務作業の効率化を図るとともに、事業経費の縮減を図る。
----------	----	---

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、IV見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。